

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名 (桑名高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から 強くはばたく 人づくり」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い歴史と伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>☆桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>☆強くはばたく</p> <p>② 地球の未来への先駆者となる科学技術人材になれるよう、生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p>☆人づくり</p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 学力・クラブ活動・楽しい学校・進路実現</p> <p>○保護者 社会性・安心安全・学力・クラブ活動・進路実現・社会的自立・楽しめる学校・一人ひとりを大切にする学校</p> <p>○地域社会 地域の誇りとなる、そしてリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>○大学 知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成</p> <p>○中学校 桑高の特色明確化、中学校への情報提供</p> <p>○教育産業 桑高のニーズは何か？</p> <p>○保護者 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p>○地域社会 地域活動への参加</p> <p>○病院等 地域医療への関心</p>	<p>○大学 高大連携による情報提供</p> <p>○中学校 中高連携による意思疎通</p> <p>○教育産業 桑高のニーズに合った情報提供</p> <p>○保護者 学校と連携した家庭教育</p> <p>○地域社会 地域の教育力の活用</p> <p>○病院等 学校との密接な連携</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>【勤務時間の縮減について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日を設けることは、生徒の健康な心身の発達にとって有効だが、先生たちは多忙で、そのことが勤務時間の縮減には直接的につながっていないように感じる。難しい問題ではあるが過重労働時間を減らすために、どうすればよいかを考える必要がある。 <p>【教育活動に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが先を見据えて、どう生きていくかが大切である。地域社会と連携して、地域課題を見つけ、それをどう解決していくかを考えるような教育活動を期待している。 <p>【理数科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科課題研究発表会での内容はずいぶん進歩した。生徒たちは自分の言葉で発表することができ、面白い研究内容が多くあった。校内の発表会という位置づけだけでは勿体ないので、保護者や中学生も参加できるようにしたり、学習成果を地域に発信していく必要がある。 <p>【看護科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験の100%合格は大変素晴らしい。衛生看護科と他学科との交流があり、良いことだと思う。英語力を高めることは医療現場でも大切なことなので、今後の課題としてほしい。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="268 757 376 1261"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="376 757 1517 1261"> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の申請が認可され、目指す学校像として掲げている「桑名から強くはばたく人づくり」の実現に向けて、理数科、普通科、衛生看護科・衛生看護専攻科においてさらなる教育活動の充実を図り、改善につなげていく必要がある。 ・理数科の「課題研究」、普通科の「総合的な学習の時間」における地域課題の解決に向けた探求的な学習や、衛生看護科で課題研究として行う「看護の統合と実践」を再整理し、すべての生徒が地球規模の社会問題に目を向け、その解決を目指す科学的な課題研究に取り組むことを中核とした探求的な学習への転換が課題である。 ・「大学入学共通テスト」や新学習指導要領を見据え、各教科で記述式問題への対応や思考力・判断力・表現力の育成、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業への転換を図ることが課題である。また、新たな調査書など多面的・総合的評価への対応が必要である。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1261 376 1541"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="376 1261 1517 1541"> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に働きやすい環境づくりの推進として、業務の精選等について各分掌・学年等で話し合い、所属する分掌・学年等の観点からと学校全体の観点から考え、生徒指導部や進路指導部をはじめとするところで業務改善を進めた。このことをさらに推進し、勤務時間の縮減につながるようにしていく必要がある。しかしながら、勤務時間の縮減と教育活動の充実がトレードオフの関係に陥ることなく、両者の実現をどう図っていくかという働き方改革が大きな課題である。 </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の申請が認可され、目指す学校像として掲げている「桑名から強くはばたく人づくり」の実現に向けて、理数科、普通科、衛生看護科・衛生看護専攻科においてさらなる教育活動の充実を図り、改善につなげていく必要がある。 ・理数科の「課題研究」、普通科の「総合的な学習の時間」における地域課題の解決に向けた探求的な学習や、衛生看護科で課題研究として行う「看護の統合と実践」を再整理し、すべての生徒が地球規模の社会問題に目を向け、その解決を目指す科学的な課題研究に取り組むことを中核とした探求的な学習への転換が課題である。 ・「大学入学共通テスト」や新学習指導要領を見据え、各教科で記述式問題への対応や思考力・判断力・表現力の育成、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業への転換を図ることが課題である。また、新たな調査書など多面的・総合的評価への対応が必要である。 	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に働きやすい環境づくりの推進として、業務の精選等について各分掌・学年等で話し合い、所属する分掌・学年等の観点からと学校全体の観点から考え、生徒指導部や進路指導部をはじめとするところで業務改善を進めた。このことをさらに推進し、勤務時間の縮減につながるようにしていく必要がある。しかしながら、勤務時間の縮減と教育活動の充実がトレードオフの関係に陥ることなく、両者の実現をどう図っていくかという働き方改革が大きな課題である。
<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の申請が認可され、目指す学校像として掲げている「桑名から強くはばたく人づくり」の実現に向けて、理数科、普通科、衛生看護科・衛生看護専攻科においてさらなる教育活動の充実を図り、改善につなげていく必要がある。 ・理数科の「課題研究」、普通科の「総合的な学習の時間」における地域課題の解決に向けた探求的な学習や、衛生看護科で課題研究として行う「看護の統合と実践」を再整理し、すべての生徒が地球規模の社会問題に目を向け、その解決を目指す科学的な課題研究に取り組むことを中核とした探求的な学習への転換が課題である。 ・「大学入学共通テスト」や新学習指導要領を見据え、各教科で記述式問題への対応や思考力・判断力・表現力の育成、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業への転換を図ることが課題である。また、新たな調査書など多面的・総合的評価への対応が必要である。 				
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に働きやすい環境づくりの推進として、業務の精選等について各分掌・学年等で話し合い、所属する分掌・学年等の観点からと学校全体の観点から考え、生徒指導部や進路指導部をはじめとするところで業務改善を進めた。このことをさらに推進し、勤務時間の縮減につながるようにしていく必要がある。しかしながら、勤務時間の縮減と教育活動の充実がトレードオフの関係に陥ることなく、両者の実現をどう図っていくかという働き方改革が大きな課題である。 				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の主体的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、教科指導の充実と授業改善を進めます。 ② 入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を体系的に推進します。 ③ 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組みます。
<p>学校運営等</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 教職員の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織力ある学校づくりを推進します。 ② 学校・家庭・地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、開かれた学校づくりに努めます。 ③ 総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が創造性を発揮し、情熱とやりがいを持って生徒と向き合い、指導に専念できる環境づくりに取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 教科指導の充実と授業改善 重点② キャリア教育を体系的に推進 重点③ 豊かな人格形成	<教務部> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に対応した「主体的な学び」を実現する教育活動の充実を図るために各教科の活動を支援します。 ・ SSH部と連携し、課題研究的な要素を取り入れた「探究」、「研究」および「総合的な学習の時間」の計画を遂行することにより、生徒間の対話を深め気づきの取得を促進するとともに、生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指します。 (◎) 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究」、「研究」および「総合的な学習の時間」の自主活動を通して、対話と気づきが大切であること実感させるとともに、「主体的な学び」を実現する講演会を実施します。 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究」、「研究」および「総合的な学習の時間」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒の割合を80%以上にします。 <SSH部> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球規模の社会問題を解決するプロセスを通じて、全ての生徒が、高い志を持ち、様々な課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓く力(課題探究能力)を育成します。 ・ 地球の未来への先駆者となる科学技術人材を創出します。(桑高SGPプログラム) 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ SSH初年度対象となる1年生普通科は「探究Ⅰ」、1年生理数科は「研究Ⅰ」、衛生看護科専攻科2年生は「看護の統合と実践」において課題研究に系統的に取り組み、SDGsの17の目標に対し生徒が主体的に課題を設定する活動を実施します。 	<教務部> <p>社会の変化に対応した「主体的な学び」を実現するための教育活動の充実を図って来たところである。SSH部と連携し、課題研究的な要素を取り入れた「探究Ⅰ」、「研究Ⅰ」および「総合的な学習の時間」の計画を遂行することにより、生徒間の対話を深め、気づきの取得を促進するとともに、生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目指してきた。3年ほど前から柔軟な授業配置によりLHRおよび「総合的な探究の時間」(または研究または探究)の時間数を極力増やしてきたが、それら「総合的な探究の時間」(課題研究も含む)の総時間数の中に占めるグループ単位の活動の割合は、前年比3割増となった。それに対して、今年度の普通科の「総合的な探究の時間」は、来年度の普通科における「探究Ⅱ」の先行実施の意味合いがあることもあり、グループ単位の活動は前年度比10割増しと充実したものになってきている。このような中、教員数の縛りもあり、時間数の増ほど人を増やすことは出来ていないが、全校体制で取り組むことが出来ており、来年度の「探究Ⅱ」に向けて一層システムの精度を上げていきたい。</p> <SSH部> <p>①「探究Ⅰ」(普通科1年生全生徒 1単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク、講演などから課題研究を実施するための基礎となるスキルを習得できるプログラムを開発した。 ・ ミニ探究におけるルーブリックの開発、ポートフォリオ評価を開発した。生徒一人ひとりの良い点や可能性、進歩の状況について評価を行うことができる新しい評価方法を開発することができた。 <p>②「看護の統合と実践」(衛生看護専攻科2年生 2単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを使った相互評価システムにより、研 	◎

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会問題への参加意欲」、「自分の能力に対する信頼や自信」、「楽しんで研究に取り組んだ」等の生徒の主体性に係る部分をアンケート調査し肯定的な意見の合計割合が70%以上にします。 <p>< 1 学年 ></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション、学習ガイダンスなどの初期指導と個人面談によるきめ細やかな指導を行うことで基本的な生活習慣と学習習慣の定着を図ります。また、学年集会やオープンキャンパス参加、進路講演会参加を促すことにより高い進路意識を育てます。(◎) ・定期考査や模試後には結果を分析し、学年集会等で生徒に伝えることで、生徒の学習への意識改善と指導の見直しを図ります。(※) ・教科と連携し、時期に応じて成績層別指導を行い、学習意欲、進路意識を高めます。(※) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。) ・11月実施の進路協議会で普通科と理数科生徒が各自のキャリア(職業選択)を視野に入れた的確な文理選択及び志望校選択が行われているかを確認します。 ・7月と12月実施の看護科の実習で、その取組の中から進路意識の高揚を確認します。 	<p>究内容の深化を図ることができた。</p> <p>③「研究Ⅰ」(理数科1年生全生徒 2単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を行うにあたり必要となる、観察・実験のスキルや探究の手法を学ぶとともに、対話的な学びから論理的思考力や批判的思考力を育成するプログラムを開発することができた。 ・「研究室制度」を導入し、その専門分野の視野を広めるため、研究者の講義の受講や大学等での実験・実習体験等を実施した。 ・GSC(グローバルサイエンスキャンパス)を開催している全国の大学へ受講生として挑戦した。 ・対象学年にアンケートを取ったところア.「社会問題への参加意欲」、イ.「自分の能力に対する信頼や自信」、「楽しんで研究に取り組んだ」という項目について肯定的な意見がア.55%、イ.53%、と目標の70%は達成できなかった。生徒の「事実」と「実感」に乖離があるためその点を解消することが課題である。(ウの研究は次年度実施。今回調査せず。) <p>< 1 学年 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション、ガイダンスに加え、文理選択など重要な局面で面談を実施(年3回以上)。 ・遅刻回数は過去5年間で最も少ない。1月時点で計84名(このうち62%が通院・体調不良)である。 ・難関チャレサポ講演会に111名が参加。 ・定期考査後に学年集会を開き、模試の結果分析を各教科から伝え、学習意識改善を図った。(4回) ・駿台高1模試を受験する上位層に英数国の各教科から対策講座を行った。 ・学習習慣の定着は概ね図れてきたが、一部で定着していない生徒もいる。普通科理数科の平日家庭学習時間は2時間以上が夏までは58.7%だったが、9月調査で43.0%に減少。平日平均学習時間は1.97時間。休日4時間以上も43.1%⇒29.4%に減少。休日平均学習時間は3.26時間。 ・進路協議会では各自の進路選択について検討し適切な文理選択を行なった。 ・きめ細やかな実習指導に加え、レポートや報告書作成を行うことで、生徒がその取組を客観的に振り返る仕組みができています。 	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
--	--	---	----------------------------

< 2 学年 >

【活動指標】

- ・ 昨年に続き、生徒の心を動かし、“自ら学ぶ、挑戦する” 気概や姿勢を涵養します。日常生活の場で “高い当たり前度” を常に念頭に置き学校行事や部活動における中心的役割とその影響力を自覚し、責任感を持って行動できる判断力を育てます。また新テストに向け、広い知識や経験を積極的に身につけることで、実戦的な学力と高い志を意識させます。 (◎)
- ・ 2 学年に共通する課題「学習の中だるみ」をさせないために学年集会・通信・個人面談等で、個々の学習方法改善策の提示や学習時間確保を指導します。 (※)
- ・ 定期考査、模試等の成績分析から細やかな指導を意識し、教科との連携することで様々な層別の指導を適切な時期に行ないます。 (※)

【成果指標】

- ・ 学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日 3 時間以上、休日 6 時間以上学習している生徒が、全体の 50% 以上になることを目指します。)
- ・ 11 月実施の進路協議会で普通科・理数科生徒の的確な科目選択および志望校選択を検証し、個々に応じた助言をすることで進路意識の高揚を目指します。
- ・ 11 月に実施する看護科臨地実習で、医療現場からの学びを経て進路意識の高揚を促します。

< 3 学年 >

【活動指標】

- ・ 新テスト直前の難しい状況の中ではあるが、各教科担当や分掌の協力の下、生徒一人ひとりの進路実現をサポートできるように、こまめな個人面談、タイムリーな学年集会を実施します。また、学年通信および掲示物の発刊による適確な情報提供に努めます。
- ・ 衛生看護科の 6 月、9 月、10 月の臨地実習が進路実現に向けた有意義なものになるように、事前、事後の指導を計画的に実施します。

【成果指標】

- ・ 授業や校外の研修を通して社会科学、自然科学への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につけさせます。 (◎)
- ・ 具体的な成果指標として、本校生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が、普通科・理数科の卒業生数の 4 割以上を目指します。
- ・ 衛生看護科の生徒について、臨地実習中の生徒の様子や実習日誌・レポートの提出状況から進路意

< 2 学年 >

- ・ 2 年目に入り、“自ら学ぶ、挑戦する” ことの意義を様々な場面で体現するようになってきた。今年度の大きな行事でもある修学旅行でも団体行動を踏まえ規則を遵守した上で責任ある行動を示した。(欠席者 0 名) また「世界津波サミット」(3 名)「名大 MIRAI-GSC」(Stage1=6 名 Stage2=2 名)「聞き書き甲子園フォーラム」(1 名)「来たれ！リーガル女子」(2 名)など校外の様々な研修や研究活動に積極的に参加し、研鑽を重ねた。
- ・ 学年集会などでは真剣に講話を聞く姿勢が涵養され、各自がそれぞれの進路について考えるよう変わってきた。学年主催で卒業生を招いて「JAXA 特別講演会」など実施しモチベーションの高揚に努めてきた。
- ・ 平日課外(70~95%以上)、土曜課外(75%)に加えて教科の主催する勉強会にも参加する生徒が増え、学習に向う雰囲気は醸成されている。アンケート回答では土曜・平日課外共に「役に立っている」は 91%超である。
- ・ 学習時間調査では目標時間の生徒数%は増えているがクラブとの兼ね合いで 50%は越えていない。
- ・ 進路指導部の指導の下、それぞれの進路に応じた適切な助言を面談等で行なっている。面談は保護者を交えた三者面談を含め年に四度行なっている。
- ・ 看護実習では全員が休むことなく、真摯に実習に臨んだ。また実習後に報告発表を行なうなど、PDCA サイクルを積極的に活用し日々の教育活動に反映させている。

< 3 学年 >

- ・ 生徒の進路実現のため、定期の個人面談に加え、必要に応じて頻繁に面談を行なった。また、要所で学年集会を持ったり、進路に関する発刊物で適確な情報提供に努めることができた。
- ・ 衛生看護科では、長期にわたる病院での臨地実習に対して、実習中はもちろん、その事前事後における指導に取り組めた。
- ・ 理数科の 2 名の生徒は、2 年時に取り組んだ課題研究について、SSH 事業を利用して研究を深め、8 月に全国発表会に参加できた。
- ・ センター試験では、最終年と難化の影響で第一希望の国公立大学への出願に不安

◎

※

※

◎

識の高揚を確認します。

<理数科>

【活動指標】

- ・本年度より指定のSSH事業と連携しながら、継続的な教科指導や課題研究活動、校内外の研修活動などへの取組を通して、理系キャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

- ・授業や校内外の研修における理数科生徒の満足度の肯定的評価が80%になることを目指します。

<看護科>

- ・看護師国家試験合格100%を目標とし、思考力や判断力を養います。
- ・看護師免許の取得時に求められる実践能力を養うため、自主的、主体的な学習習慣を確立し、学び続ける姿勢を育て、学力の向上・定着を図ります。

【活動指標】

- ・日常的に思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、自らの思考の基で判断する機会を各科目の中で創出します。
- ・産業教育における事業、臨地実習施設行事、ヤングミドナ等のボランティア行事に積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にします。
- ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

- ・学習課題の充実を図り、必ず科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づく内容であるかを評価します。
- ・期日までに課題提出できる生徒の割合が100%になることを目指します。
- ・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験を基に今後の考察も記入できるようにします。

<総務部>

【活動指標】

- ・人権便りの年5回以上の発行、人権講演会や人権LHRの実施を通して、①差別に気づく豊かな心

を抱える生徒が多く、例年以上に出願指導は難しかった。

<理数科>

4/17 理数科縦割りガイダンス(1・3年) 課題研究ガイダンス(2年)、7/19～21 理数科合宿(1・2年 琵琶湖博物館、長浜バイオ大学)、10/18 理数科校外研修(1年 NTN 先端技術研究所)、11/5 理数科校外研修(2年 四日市オキシトン)、11/11 理数科校外研修(1年 名古屋工業大学)、1/29 課題研究発表会(1・2年)などを通してキャリア教育を推進した。それぞれの行事のアンケートにおいて、理数科生徒の満足度調査の結果は肯定的評価が90%を超えている。また、校外においても SSH 全国大会、みえ科学探究フォーラムなどでの口頭やポスター発表、三重県科学オリンピック物理実験部門1位(総合5位)、名大 MIRAI GSC や数学オリンピックへの参加など校外でも活躍する生徒が増えてきている。

<看護科>

- ・授業は、シミュレーション学習や演習やロールプレイを取り入れ、グループでディスカッションし、考察し、主体的に課題に取りくむことができた。課題は98%以上の生徒が提出することができた。

- ・成績不良者には補習授業、再テスト、課題などに取り組みせ、学習への動機づけを持たせた。

- ・臨地実習では事前、事後に打ち合わせも行き、現場の指導者と連絡を密にして学習目標達成に向けて指導を行った。

- ・衛生看護科及び専攻科が協力して産業教育フェアの参加やヤングミドナ(25名参加)に参加し、献血の啓蒙活動を行った。また実習病院祭に10名の生徒が参加した。

- ・キャリア教育では、外部講師を招き、接遇や就職の講座や国試ガイダンスを実施した。卒業生と語る会では、幅広く活躍している先輩へ直接質問する機会となり 国試勉強や就職への意欲が高まった。専門領域においては医療安全や看護管理、精神看護学など外部講師を招いて知識を高めた。

<総務部>

- ・人権便りについては各学期1回、計3回の発行になってしまった。ただ、節目の良い時

	<p>を育みます。②人権問題を仲間と共に学び、お互いの気持ちを理解し合い、認め合えるようにします。③問題解決やよりよい方向を目指して、協調性と積極性を持って取り組めるようにします。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが95%以上を目指します。(◎) <p><生徒指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣を確立させます。また、自主・自律した社会生活が送れるよう高校在学中に指導するとともに、交通事故の防止、社会や時代の変化に伴う様々なリスクに対する危機管理能力を身につかせます。(◎) <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常授業時には毎朝8時から校門（正門、北門）にて挨拶指導、服装指導、遅刻指導、自転車通学生の安全指導を行い、社会や学校の規則、マナーを守る習慣を身につかせます。 ・校内では挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1回（5日間）実施し、品格を備えた桑高生を育みます。同時に、通学路にて交通安全指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導を行います。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し、身だしなみを整える指導を行います。 ・月間生活努力目標を設定し、生活の基本様式（身だしなみ、正しい規範意識、挨拶など）を身につかせ集団の中で生活できる能力を育てます。また全教員で共通理解を持って一貫した生徒指導を行います。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式典や集会等はもちろんのこと、日常的に身だしなみ（正しい制服の着こなし）を整えさせることを最大の目標とします。特に女子生徒のスカート丈においては適正な長さ（膝の真ん中より下）での着用を定着させることを重点課題とします。 	<p>期に発行できたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会は「障がい者」をテーマに鈴鹿市在住で東京パラリンピックの車いすフェンシングの代表をめざしている恩田竜二ご夫妻をお招きして実施した。気さくな話し方や前向きに生きる様子に対して、生徒・職員には好評であった。 ・人権LHRは3学年は7月に体育館を使い全体で実施した。内容は「就職における差別事象への対応」を取り上げた。進行は人権担当が務めたが、全体に対して同じ話ができただ事、良かったと感じた。1・2学年は1月に「LGBTに対して理解を深める」をテーマに取り上げた。10月の職員研修で外部講師を招き、LGBTを学んでいたため、スムーズに実施できたと思う。 <p><生徒指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式や終業式の際に学期で気になった改善点を話し、注意を促すことができた。 ・平常授業時には、ほぼ毎朝、校門（正門、北門）に立ち、生徒への声かけを数多く行った。それに加え「Formal Week」で挨拶指導や服装指導を根気よく行ったおかげで、挨拶を大きな声のできる生徒が昨年より増え、正しい制服の着こなしができるようになった。また遅刻寸前の生徒も「カウントダウン指導」を大きな声で行うことにより、校門を通過してから教室まで走って行く生徒が増えた。自転車の乗り方については多くの課題はあるが、安全に乗ろうとする気持ちが出始めている。 ・年3回全職員体制で実施している頭髪服装指導では、軽微な違反（爪の伸びすぎ、校章やスカーフ忘れ等）はあるものの、パーマや染色といった頭髪加工やピアスといった継続指導が必要な生徒は年間1～2名と減少傾向。 ・昨年度に引き続き重点的に行った正しい制服の着こなし指導については、女子生徒のスカート丈が校則通りにほぼなりつつある。このまま気を抜かずに、生徒指導部が主体となって生徒自身が正しい制服の着こなしを自らできるように指導していきたい。 ・月間生活努力目標の設定については時期や生徒の実情に応じた適切な設定、発信ができたと思う。生徒全員に周知できたかどうかはわからないが少数でも意識し行動してくれた生徒がいたことは確かである。
--	--	--

<定時制 学習指導>

- ・社会の変化に対応した「主体的な学び」を実現するための教育活動に取り組みます。
- ・キャリア教育を視野に入れた「総合的な学習の時間」の内容の充実を図ることで、生徒間の対話を深め、「気づき」を促進します。また、限られた時間の中で様々な体験・経験をすることで、自己肯定感の涵養、生徒の持つ思考力・発信力の向上、協調性とリーダーシップの育成に取り組みます。

(◎)

【活動指標】

- 1年生：基本的生活習慣の確立
- 2年生：進路実現に向けて勤労と学業の両立
- 3年生：進路実現に向けて自己啓発
- 4年生：コミュニケーション能力の向上と進路実現に向けて自身で行動する力の育成
- ・1・2年において、国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着と向上を図り、外国籍の生徒についても日本語指導を踏まえ取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒満足度80%を目指します。
- ・基礎学力の定着について、D3からの脱出を目指します。

【活動指標】

- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。

【成果指標】

- ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。

<定時制 生徒指導>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣の確立を目指し、自律した生活が送れるように指導を行います。

(◎)

【活動指標】

- ・無断遅刻・無断欠席をなくし、生活指導案件5件以下を目指します。
- ・挨拶運動・誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気づくりを確立します。
- ・校則はもちろん、社会のルールを厳守するよう指導を行います。
- ・生活全体を指導できるよう努めます。

【成果指標】

- ・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底的に指導します。
- ・ABCを確実にできるように指導します。
- ・A当たり前のこと B馬鹿にしないで

<定時制 学習指導>

学習指導においては、職員全体でPDCAのサイクルを大切に、「分かる」授業を心掛けた。また、授業研究週間を学期毎に設け、職員間で授業の見学を行った。

総学については生徒につけたい力を考慮し年間40時間実施することができた。今年度の新たな試みとしてキャリア教育における「企業パネルディスカッション(本校)」「企業見学(桑名・四日市の企業)」、スクールカウンセラー講話、消費者教育を行った。全学年同内容で一斉に行うことが多かったため、今後学年が上がるごとにスキルアップできるような仕組みを確立していきたい。

全学年において学期毎に授業理解度アンケートを実施し、授業や使用教材の難易度、速さ、学習における悩み等6項目について尋ねた。結果については学年毎にまとめ、生徒一人ひとりの学習に対する悩みを把握するとともに授業に対する満足度向上に役立てた。

昨年度まで実施していた基礎学力診断テストの代わりに学校独自の「学びの基礎学力診断テスト」を5教科(各30分間)で実施した。結果(平均点/100点)は以下のとおりである。分母が少ないので、単純に比較することは出来ないが、基礎学力の定着や向上が喫緊の課題である。

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	44.9	34.5	35.9	31.3	32.7
2年	45.9	41.3	33.4	31.8	40.8
3年	47	46.8	51.8	37.4	52
4年	37.3	35.9	49.1	24.6	45.6

<定時制 生徒指導>

昨年度遅刻が非常に多かったため、今年度からある一定の回数遅刻をした場合個人的に指導を行うことにした。結果として、遅刻は年間100件程減った。しかし、依然として欠席や遅刻が目立つ生徒がいるので引き続き丁寧な指導を行っていきたい。

<定時制 進路指導>

全校生徒対象にキャリア教育を各学期に1回ずつ実施し、生徒は自分の進路について考えることができた。

- 1学期(6月) 職業別体験授業
 - 2学期(11月) 企業説明会
 - 3学期(2月) 企業見学
- 卒業生の進路状況について
生徒の有職率については、以下のとおりで

	<p>Cちゃんとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先など各諸事情の報告を徹底指導します。 <p><定時制 進路指導></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身につけさせます。 ・進路実現に向けたキャリア教育の実施 ・自分探しによる新規開拓 ・外国籍生徒の就労支援 ・大学進学への指導 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の有職率80%を目指します。 ・各教科でICT機器の充実について検討していきます。 	<p>ある。</p> <table border="1" data-bbox="975 107 1396 264"> <thead> <tr> <th></th> <th>在籍数</th> <th>有職数</th> <th>比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>53.8</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>41.7</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>90.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>進路指導については、生徒一人ひとりの希望や適性を把握し、大学入試や就職試験対策を丁寧に行うことができた。自分の進路について直前になって迷うことがないように、1年生の段階からさらに具体的に考える機会を作っていく必要がある。進路の内訳については以下のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="975 573 1228 680"> <tbody> <tr> <td>就職</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>進学</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		在籍数	有職数	比率(%)	1年生	13	7	53.8	2年生	12	5	41.7	3年生	9	9	100	4年生	11	10	90.9	就職	4	進学	8	その他	2	
	在籍数	有職数	比率(%)																										
1年生	13	7	53.8																										
2年生	12	5	41.7																										
3年生	9	9	100																										
4年生	11	10	90.9																										
就職	4																												
進学	8																												
その他	2																												
改善課題																													
<p>今後は「カリキュラム・マネジメント」を視野に入れながら今一度「目指す学校像」「育みたい生徒像」「ありたい教職員像」等について再検討し、深めていくところから取り組んでいく必要がある。</p>																													

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>重点① 組織力ある学校づくり</p> <p>重点② 開かれた学校づくり</p> <p>重点③ 指導に専念できる環境づくり</p>	<p><総務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループウェアの活用を呼びかけ、朝の打ち合わせや会議時間の短縮に取り組みます。 (◎) 企画委員会を通して分掌間の連携を図ります。 同僚と相談しながら仕事を進めていける職場づくりに取り組みます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の打ち合わせの全体連絡が8時25分までに終わるようにします。 総務部が関わる会議が1時間以内に終了するようにします。 職員満足度調査の人間関係の項目、「職員間の対話は活発に行われていますか」「同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか」の数値3.0以上を目指します。 <p><AKP></p> <p>(AKP＝「明るい桑名高校プロジェクト」委員会より)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員間のコミュニケーションをより活発にし、目指す学校像実現に向けたアイデア、及び業務内容の精査に関する意見を出し合える環境をつくることで、仕事を楽しく感じられる職員連携を構築し、多忙感の解消を目指します。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員満足度調査の重点項目、「職員間の対話は活発に行われていますか。」の数値3.0以上を目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの職員が参加する交流の場（懇親会）を12月末に作り上げます。 コミュニケーションを活発にするような企画運営を行い、多忙感や負担感を解消します。 (◎) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末に行う職員満足度調査において、平均数値が2.9以上になることを目指します。 <p><事務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒や教職員が安全で快適な学校生活を送れるよう、施設整備等の点検・改修を行い、学習環境の整備を行います。 コンプライアンスを徹底し適正な事務処理を 	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> グループウェアの活用は、昨年度より進み、朝の打ち合わせ、会議時間の短縮にもつながっている。職員会議では提案にかかる時間を事項書に記載する工夫もした。 対話・相談しながら仕事を進める職場づくりについては数値だけをみれば改善の必要性がある。対話の時間を生み出しにくいのは業務多忙化が大きな要因ではないかと考える。今年度は特にSSH事業の導入、大学入試の制度改革などがあったことも背景にある。 (職員満足度調査結果より) ①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。→ 数値 2.5 (昨年 2.7) ②職員間の対話は活発に行われていますか。→ 数値 2.5 (昨年 2.8) ③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。→ 数値 2.8 (昨年 3.1) <p><AKP></p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の一環としての、定時退校日の取組をもって多忙感の解消を目指した。 職員満足度調査「定時退校できましたか」の項目が昨年度 2.4 から今年度 2.6 に上昇。 「職員間の対話」は今年度の数値は 2.5(昨年度 2.8) 今年度の交流の場には 34 名が参加(全職員の 36%) 職員満足度調査の平均数値 今年度 2.66(昨年度 2.71) <p><事務部></p> <ul style="list-style-type: none"> 7月、1月に消防設備点検及び9月に貯水槽清掃を実施するとともに教室の床や照明器具等の施設修繕を行いました。また、本校B館の長寿命化工事に向け教育委員会と協議調整を行いました。 	<p>◎</p> <p>◎</p>

	<p>行います。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防設備等の点検を行い必要な補修を行います。 ・老朽化している本校校舎の改修に向け関係機関と調整します。 ・毎週事務室の打合せを実施し、業務の進捗状況等情報共有を行うとともに事務部でコンプライアンス研修を年3回実施します。 <p><全体></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校活性化計画に基づき「主体的で深い学びに協働して取り組む教育の充実」「カリキュラム・マネジメントを取り入れた学校教育の改善」「ICT活用による学びの充実」「大学等と連携した教育の推進」「定時制教育の充実」等に組織的・継続的に取り組みます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「授業理解」「進路指導の充実」「教員との対話」の肯定的評価を80%以上とします。 ・グローバル人材育成に向けて「ユネスコスクール」への加盟申請を引き続き行います。 <p>【活動指標】 ()内は前年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総勤務時間縮減の取組として、以下の3項目に取り組みます。①定時退校日を月1日実施し達成率63%以上(59.5%)、②部活動休養日を週1日以上設定し設定率98.5%以上(98%)、③1時間以内に終了する会議75%以上(72.6%)を目指します。(◎) <p>【成果指標】 ()内は前年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間を5%削減目指し、平均26時間/月とします。(平均27.4時間/月) ・休暇取得日数の一人あたり年間平均日数を0.5日分の増加を目指し17.73日以上とします。(17.23日) ・月80時間を超える時間外労働の年間延べ人数の50%削減を目指し年間延べ人数30人とします。(60人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務の打合せを原則毎週実施し、業務の進捗管理等を行うとともにコンプライアンス研修を年3回(6月、11月、2月(予定))実施し、コンプライアンスの徹底を図りました。 <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート結果より ()は前年度 <table border="0"> <tr> <td>授業理解</td> <td>85.0%</td> <td>(86.0%)</td> </tr> <tr> <td>進路指導の充実</td> <td>85.0%</td> <td>(82.8%)</td> </tr> <tr> <td>教員との対話</td> <td>84.3%</td> <td>(80.2%)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユネスコスクール」はチャレンジ期間を終了し、引き続き加盟申請中。 ・定時退校日を月1回実施し年間平均定時退校率は73.3%(58.3%)。 ※2月末現在 ・部活動休養日週1回以上の年間設定率98.2%(98.0%) ※2月末現在 ・1時間以内に終了する会議の年間割合70.5%(72.6%) ※2月末現在 ・時間外労働時間(2月末数値) <table border="0"> <tr> <td>29年度</td> <td>25.2時間/月</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>28.0時間/月</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>26.3時間/月</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・休暇取得日数 <table border="0"> <tr> <td>29年度</td> <td>14.32日</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>14.40日</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>13.47日</td> </tr> </table> <p>※4~12月の比較数値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月80時間を超える時間外労働の延べ人数(2月末数値) <table border="0"> <tr> <td>29年度</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>25人</td> </tr> </table>	授業理解	85.0%	(86.0%)	進路指導の充実	85.0%	(82.8%)	教員との対話	84.3%	(80.2%)	29年度	25.2時間/月	30年度	28.0時間/月	R1年度	26.3時間/月	29年度	14.32日	30年度	14.40日	R1年度	13.47日	29年度	44人	30年度	60人	R1年度	25人	◎
授業理解	85.0%	(86.0%)																												
進路指導の充実	85.0%	(82.8%)																												
教員との対話	84.3%	(80.2%)																												
29年度	25.2時間/月																													
30年度	28.0時間/月																													
R1年度	26.3時間/月																													
29年度	14.32日																													
30年度	14.40日																													
R1年度	13.47日																													
29年度	44人																													
30年度	60人																													
R1年度	25人																													
改善課題																														
教育活動の充実を推し進める中で年々多忙化している現状から抜け出すためにも業務内容の精選等をして教職員が「働きやすさ」を実感できるようにしていくことが課題である。																														

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸課題の改善に向けてICTの活用をうまく進めて、時間的効率化を図ることであり、生み出された時間で何を考えることが大事である。共通の活動目標を掲げるAKPと総務部がドッキングして何かをやっていくとよい。 ・外部と連携して力を借りることである。大学や地域人材だけでなく、卒業生の
----------------------------	---

	<p>活用も重要。また、中学校に目を向けて中学生に対して在校生が学校を紹介していくことで生徒自身が自らの位置づけを明確にできるという学習効果がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者自身を活用することである。グループ学習の中で互いを支援し合うことで生徒は受け身の「存在」ではなく主体的な「学習指導の協力者」になり得る。 ・生徒指導で朝校門に立ち、生徒たちに挨拶や声かけをすることはとてもよい。声をかけられ、他者から存在を認めてもらうことは生徒たちの成長につながる。 ・SSHのねらいに「グローバル」を掲げているが、科学的研究だけではなく、もっと幅広いソーシャルな面も大事にしていってもらいたい。 ・看護職は厳しい現場である。就職して3年もしないうちに辞めてしまうような人も少なくない。学校で将来設計を見据える教育をしてもらうことを期待する。 ・LGBTについて考えるとともに、現在の制服について一考してもらいたい。 ・会議時間短縮の工夫の一つは、言いたいことを端的にわかりやすく伝えるよう心がけることである。
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>生徒の興味関心を高めながら支援してグローバルに活躍する人材を育てるため、ICTを活用して時間的効率化を図りつつ、外部と連携しながら主体的な学びに向けた取組を進めていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>従来通りやっていたのでは改善に結びつかないので、重点的に何に力を入れていくかを考えることである。そのためにも横のつながりを厚くして、互いに意見を言い合える雰囲気づくりを促進する。</p>